

AI による翻訳につき、発表者ご本人の表現したいことと多少異なる部分があるかも知れませんが、スピーカーの思いを共有するヒントになりましたら幸いです。尚、英文原文とその和訳は COMCUP サイトにてご確認くださいませ。

Speech I

①みずた なるみ

スマホにはたくさんの資源と人の力という大きなエネルギーが使われている。新しいものを買う前に、今あるものを長く大事に使うことが未来のためになる。

②あかり マーチー

ビル・ゲイツが「パソコンを一人一台」という夢を実現したように、話し手は「すべての家の屋根に太陽光パネル」という夢を持っている。太陽の力で未来をきれいにしたい。

③ぐんじ かんすけ

そろばん 1 級に合格したいという強い思いが、何度も挑戦してもあきらめない力になっている。もう今はいない先生に「合格したよ」と伝えたい気持ちが、自分のエネルギーと頑張る力になっている。

④のぐち ここあ

苦手な 50m 走りレーで最下位だったが、クラスの応援が心のエネルギーとなり、最後まで走りきることができた。応援は人を元気にし、前に進む力を与えてくれる。

⑤しばた めい

SDGs の「住み続けられるまちづくり」には、エネルギーの使い方を考える事が大切。節電や再生可能エネルギーを使うことで、未来の街の安全で美しい場所にできる。

⑥おおね のあ

地球温暖化は、私たちが毎日使うエネルギーと深くつながっている。日本はまだ化石燃料に頼っているため、省エネが地球を守るためにとても大切だ。

⑦Lisha Yu

エネルギーは電気だけでなく、人の「知識」「力」「やさしさ」も大切なエネルギー。みんながそのエネルギーを出し合えば、世界の問題も解決できる。自分も勉強や笑顔で未来に力をそそぎたい。

English Recitation

①しまだ けい「デザインあ展ネオ」

展示では「動き(動詞)」に注目し、デザインが私たちの行動とつながっていることを感じられます。また「よく見ること」が新しい発見と創造の出発点であると説明しています。ものを「見る力」が自分だけの世界をつくるというお話です。

②なかじ けんた「失敗と成功について」

がんばっていると、だれでも失敗したり落ち込んだりします。でも失敗は悪いことではなく、次の道へ進むためのサインです。自分の心の声を聞き、「本当にやりたいこと」に向かって進めば、幸せにも成功にもつながるという話です。

③なるけ みはる「潮風のパン屋さん」

パンが大好きだったあすかさんは、近所のおばあさんの言葉をきっかけに自分の夢を思い出し、パン屋さんを開きます。いろいろなパンを作って人々を喜ばせ、小学校の時の友だちとも再会します。日常にある小さな幸せに出会う物語です。

④あらき なつみ「アナンシと知恵のつぼ」

くも男のアナンシは、世界中の知恵をひとりじめしようとします。しかし、失敗してつぼが割れ、知恵は世界中に広がってしまいます。その結果、みんなが少しずつ知恵を持つようになった、という教訓の話です。

⑤おおにし りりな「マララのスピーチ」

マララは、教育の大切さを語り、世界中の子どもが学校に通えるよう行動しようと呼びかけます。戦争や差別で教育を奪われた経験から、声を上げ続ける決意を伝えています。「私たちの世代で、この問題を終わらせよう」という強いメッセージです。

⑥おおね りた「手塚治虫の人生」

手塚治虫は、子どものころから絵が大好きで、戦争の体験を通して「いのちの大切さ」を作品に込めました。医者になる夢もあったけれど、漫画家になる道を選び、多くの名作を生みました。今も「マンガの神様」として世界中で愛されています。

⑦おおき そうすけ「北風と太陽」

旅人のコートを脱がせる力くらべて、北風は強く吹きつけても失敗します。しかし太陽は暖かい光で旅人が自然にコートを脱ぐようにします。「やさしい力のほうが強いこともある」ということを伝えています。

English Speech2

①たなか あすみ「未来を動かすのは思い」

このスピーチでは、「エネルギー」は太陽や電気などの科学的なものだけでなく、人の心の中にも存在すると述べている。感情や思いこそが、本当の意味で未来を動かす力になると考えている。大阪・関西万博のテーマを通して、最先端技術だけでなく、人々の希望や願いが未来社会を形づくるというメッセージを感じ取ったという。地球温暖化などの深刻な課題が残る中でも、より良い未来を願い行動する人々の思いには大きなエネルギーがあると語っている。世界中から人が集まる万博は、多様な価値観や考え方に触れる場でもあったと振り返っている。戦争や貧困など、日本では実感しにくい問題にも目を向ける大切さを示している。科学技術だけでなく、一人一人の気持ちが問題解決につながると信じている。国や文化を越えて思いを集めることで、明るい未来が生まれると締めくくっている。

②ふるた あやの「調和のエネルギー——競争し、協力し、明日を創る」

このスピーチでは、競争と協力は対立するものではなく、共に存在できる力だと述べている。弦楽オーケストラ部での経験を通して、厳しいオーディションという競争と、仲間同士で支え合う協力の両方を学んだという。競争は人を成長させ、新しい価値や活気を生み出す大切なエネルギーだと説明している。一方で、地域の清掃活動や寄付などに見られる協力のエネルギーも、社会を支える上で欠かせないと語っている。しかし現代社会では、競争に比べて協力のエネルギーが使われにくい現状があると指摘している。オーケストラでは、互いに競い合って技術を高めたからこそ、演奏では高い協調性が生まれていると述べている。企業の CSR 活動も、競争と協力を両立させた例だと紹介している。競争しながら協力する姿勢こそ、これからの社会に必要なだと結論づけている。

③おかだ えつこ「エデュナジー — 未来を動かす力」

このスピーチでは、教育とエネルギーを組み合わせた「エデュナジー」が未来を動かす力だと語っている。話し手はバングラデシュでの滞在を通して、教育が路上で暮らしていた子どもたちの心に希望を灯す瞬間を目にしたという。ボードゲームを使った学びによって、子どもたちが考え、協力し、挑戦する姿に強い感動を覚えたと述べている。支援はお金や物を送るだけでは十分ではなく、学ぶ力に気づくことが本当の変化につながると気づいたという。かつて学ぶ側だった子どもたちが、次は教える側へと成長していく姿に、学びの循環を感じたと語っている。教育は貧困の連鎖を断ち切るだけでなく、人を与える存在へと変える力があると述べている。エデュナジーは次の世代へ受け継がれることで、さらに強くなると締めくくっている。

④フェルテス リン「かくれんぼと未来」

このスピーチでは、かくれんぼのような身近な遊びが子どもの未来を形づくる力を持っていると述べている。幼少期は脳の発達が特に早く、この時期の経験が将来に大きな影響を与えると説明している。子どもは画面を見るだけでなく、大人との会話や遊びを通して脳のつながりを育てると語っている。「やりとり」を重ねることで、考える力や人と関わる力が育つと述べている。かくれんぼや会話、歌などのシンプルな活動が、自己コントロールや思いやりを育てると強調している。スマートフォンに頼る代わりに、一緒に遊ぶ時間の大切さを訴えている。日常の小さな関わりが、心と体の成長につながると語っている。子どもを幸せにすることが、より良い未来につながると締めくくっている。

⑤やました ふう「未来のまなざしは私たちに向けられている」

このスピーチでは、住宅地に現れるクマの問題を通して、環境問題を人間の責任として捉えている。クマが町に下りてくるのは危険だからではなく、気候変動や森林破壊によって食べ物を失った結果だと説明している。クマは敵ではなく、人間社会の選択によって影響を受けている存在だと語っている。森が発している SOS に、私たちが応える必要があると強調している。恐れや怒りの感情は、希望と結びつくことで行動のエネルギーになると述べている。一人では大きなことはできなくても、小さな行動や声を積み重ねることが大切だと訴えている。未来を担う世代が責任を持つことの重要性を語っている。自然と共に生きる未来は、私たちの選択次第だと締めくくっている。

⑥こばやし はるな「楽しい予感」

このスピーチでは、「楽しい予感」が人生を動かす原動力になると語っている。中学生のとき、アメリカの大学生活を紹介するテレビ番組を見たことが、海外の大学に行くという夢の始まりだったという。その直感を信じて英語学習に励み、異文化への関心を深めていったと述べている。高校ではエジプトやボストンへの研修旅行に挑戦し、自分から行動する力を身につけたと語っている。周囲と比べて悔しい思いをすることもあったが、積極的に話すことで自信を得たという。失敗を恐れなくなり、新しいことに挑戦する勇気が生まれたと述べている。楽しさを大切にすることで努力を続けられると考えている。直感を信じて前に進むことが、夢の実現につながると締めくくっている。

⑦よしの ひろと「信頼と感謝」

このスピーチでは、話し手は「信頼」と「感謝」が自分の未来を支える大切な強みになると述べています。野球の経験を通して、信頼が生まれる喜びを感じました。試合中に声をかけ合い、ミスをしてもしなうことで、チームの絆がさらに深まると考えています。また、先生や友達、家族がしてくれる日常の小さな行動一つ一つに、感謝の気持ちを持つことの大切さにも気づきました。誰かが自分のために時間や気持ちを使ってくれていると知ること、周りの人をより大切に思えるようになったと語っています。信頼と感謝は、学校生活だけでなく、将来社会に出たときにも欠かせない力だと感じています。これからもこの二つの価値を自分の軸として育て、前向きに成長しながら未来へ進んでいきたいと締めくくっています。

⑧なゆき こはる「小さな挑戦が大きな未来につながる」

このスピーチでは、イギリスでの短期留学を通して得た成長について語っている。初めての海外生活に不安を感じながらも、ホストファミリーの温かさに触れて安心したという。6 歳のホストシスターに折り鶴を教えた経験から、言葉や身ぶりで伝える自信を得たと述べている。一方で、学校の先生と十分に話せなかった悔しさも残ったという。その悔しさが、将来もう一度挑戦したいという目標につながっている。成功だけでなく、後悔も大切な学びになると語っている。小さな挑戦の積み重ねが前に進む力になると述べている。失敗を恐れず挑戦してほしいと聴衆に呼びかけている。

⑨みずた このみ「エネルギー」

このスピーチでは、人類がまだ技術を持たなかった時代、世界を発展させてきたエネルギーは、人間の創造性だと述べられています。火を生み出し、より良い世界を作ろうとする内なる欲求こそが、最初のエネルギーだったのです。この創造のエネルギーは、ガソリンや電気、SDGs よりもずっと前から存在してきました。スピーチやコンテストは、人々が自分の中のエネルギーに気づき、考え方を新しくするために行われています。しかし現代社会では、SNS や AI の影響で、若者の創造性が後回しにされがちです。もしエネルギーを技術や経済だけで考えてしまえば、表現が失われ、私たちは自分たちが作った技術に支配される未来を迎えてしまいます。だからこそ、私たちは内なる創造のエネルギーを燃やし続ける必要があるのです。

⑩すずき みき「私たちの未来にとって大切なこと」

このスピーチでは、未来を切り開くために大切な三つのことについて述べています。一つ目は勉強することの大切さで、将来ヘアスタイリストになる夢をかなえるために資格取得が必要であり、学ぶことで選択肢が広がると語っています。二つ目は他人の意見を大切にすることで、家族や友人、先生の考えに耳を傾けることで新しい発想が生まれ、より良い未来につながると考えています。三つ目は苦手なことにも挑戦することで、自信が付き、自分の意見をはっきり伝えられるようになると述べています。これらを意識しながら努力を続け、聴衆にも自分の未来に向かって踏み出してほしいと呼びかけています。

⑪しまだ のりゆき「スマートフォン依存の厳しい現実:それはこれからも続く」

このスピーチでは、スマートフォンの使いすぎが私たちの生活に与える影響について問題提起している。多くの人が長時間スマートフォンを使用し、睡眠不足や家族との時間の減少につながっていると指摘している。日本や海外では、子どもや若者のスクリーン時間を制限しようとする動きがあることを紹介している。過度な使用は集中力や自己肯定感、深く考える力などに悪影響を及ぼすと述べている。特に成長期の脳への影響を強く心配している。スマートフォンは便利だが、使い方を見直す必要があると語っている。子どもたちが十分な睡眠を取り、人と関わる時間を大切にしてほしいと訴えている。大人が意識を変え、次の世代を導く責任があると締めくくっている。

⑫いいむら みの「人と動物が共に生きる未来へ」

このスピーチでは、捨てられた犬や猫の現状を伝え、人と動物が共に生きる未来を目指す思いを語っています。話し手は、神栖市を拠点とする NPO 法人「ドッグ&キャットレスキューOHANA」の一員として、保護犬・保護猫の活動に取り組んでいます。「ゼロ神栖」を目標に活動を続けた結果、野良犬の数は大きく減少しましたが、県全体での解決にはさらなる協力が必要だと述べています。殺処分は行われていないものの、動物たちは十分に安心できる環境とは言えず、話し手は命の重さと終生飼養の大切さを強く感じました。その思いを広めるため、「A Dog's Story」という寄付プロジェクトを立ち上げ、学校や図書館への本の配布を進め、人と動物が共に生きる社会の実現を呼びかけています。

⑬よしの りさ「小さな一歩が私の未来を変える」

このスピーチでは、人前で話すことへの恐怖を乗り越えた体験が語られている。幼い頃から人前で話すのが苦手で、不安を強く感じていたという。英語スピーチコンテストへの挑戦が、最初の小さな一歩だったと述べている。勇気を出して参加したことで、多くの人と出会い、言葉が心をつなぐ喜びを知ったという。自分から行動したからこそ、貴重な出会いが生まれたと語っている。つながりは待っているだけでは生まれないと気づいたという。小さな勇気が次の勇気を生むと述べている。勇気こそが未来を形づくる力だと締めくくっている。

⑭キム セюн「未来を創る私のエネルギー」

このスピーチでは、自分の名前が周囲と違うことで悩んだ経験が語られている。名前を呼ばれるたびに注目され、違いを隠したいと思っていた過去があったという。英語キャンプで自分の名前や背景を話したとき、肯定的に受け止められた経験が転機になったと述べている。その出来事を通して、違いは弱さではなく強さになると気づいたという。二つの文化を持つことで、広い視点で物事を考えられるようになったと語っている。違いは人と人を分けるものではなく、つなぐものだと考えている。将来は、さまざまな背景を持つ人が語り合える場を作りたいと述べている。自分の物語を力にして未来を創りたいと締めくくっている。

⑮なみき そら「10代のためのエネルギーレシピ ― 朝食・運動・睡眠、そして… ―」

このスピーチでは10代にとって大切なエネルギーの源として、朝食・運動・睡眠を挙げている。これらは集中力や記憶力を高め、心身の健康を支えると説明している。話し手自身も生活習慣を改善したことで、勉強やスピーチに前向きに取り組めるようになったという。さらに、心のエネルギーとして「好きなものへの愛」があると語っている。好きなことは努力を続ける原動力になると考えている。エネルギーとは何かを考える中で、「自分らしく生きること」が答えだと気づいたと述べている。迷いや葛藤も含めて自分だと受け止めている。自分らしさを見つけることで新しい自分に会えると締めくくっている。

⑯ひろずみ ゆう「内気さから行動へ」

このスピーチでは、内気だった自分が行動できるように変わった過程が語られている。ガールスカウトに参加したことで、安心して意見を言える環境に出会ったという。少しずつ発言し、やがて企画やリーダー役も任されるようになったと述べている。その経験が自信につながり、新たな挑戦への意欲が生まれたという。生徒会活動やロボットコンテストへの再挑戦も、その延長だったと語っている。助けを求めることは弱さではないと学んだという。失敗や間違いも成長の一部だと受け止められるようになった。機会を逃さず行動することの大切さを強く訴えている。

⑰こやぶ ゆあ「声を上げ、未来を変えよう」

このスピーチでは、未来を形づくるエネルギーは電気や燃料ではなく、「声のエネルギー」だと述べられています。それは、自分の考えを表現し、信じることを声に出す力です。子どもは間違いを恐れずに話すことで声を成長させますが、大人になるにつれて正解を求める社会の中で発言を控えるようになります。話し手は、英語の授業で文法ミスを恐れて発言できなかった自身の経験を紹介します。勇気を出して手を挙げ、間違いながら意見を伝えたことで、完璧さよりも話すことの大切さに気づきました。その経験は自信につながり、結果的に英語力の向上にもなりました。小さな声でも未来を動かす力があり、声を出さなければ前進できないと伝えています。そして、間違いを成長の一部として認め、すべての声が尊重される社会を目指そうと呼びかけています。

⑱たしろ ゆうじ「言葉のエネルギー」

このスピーチでは、57歳の話し手が、若い世代から学ぶためにここに立っていると語っています。若者の率直な感情や正直な言葉、そしてエネルギーが、自分を成長させ続けてくれるからです。17歳のときに父を亡くし、病気の母を支えるために学校を辞めようと考えていました。そのとき、事情をすべて話さなくても、先輩が「学校は辞めるな」と声をかけてくれました。その一言が人生を大きく変え、言葉が持つ力とエネルギーに気づかせてくれました。その後、学校を続ける道を見つけ、言葉は人を前に進ませる力があると学びました。父と母がそれぞれ最期に「来てくれてありがとう」と言ってくれたことから、感謝は時代や場所を超えて感じています。だからこそ、「ありがとう」という言葉は未来へとつながる大きなエネルギーなのだと伝えています。